

早生祝蕾



特徴

- アブラナ科野菜の一種で高菜と同じ仲間。
- アスパラガスのような食感と、高菜のピリ辛さ・ほろ苦さが特徴的な、春を告げる新野菜。
- 冬の寒さが厳しい地域ではハウス栽培を推奨します。
- 今までの祝蕾よりも早い青果収穫が可能となります。

栽培適期表

(近畿標準)

栽培型	月	9	10	11	12	1	2	3
一般地	●	×	—	—	—	—	—	—

記号説明 ●:播種 ×:定植 —:栽培期間 ■:収穫期間

栽培方法

<施肥>

元肥は 10a 当たり N:P:K=17kg:17kg:17kg (キャベツの 1~2 割増) を施します。活着後の生育に応じて、年内までに 1~2 回の追肥を行い、収穫前までの株作りに努めます。脇芽形成までの葉枚数確保が収量増につながります。

<種まき・定植>

直播きではなく育苗を基本とします。中間地での播種時期

は 9/1 以降を目安とし、早播きは抽苔の原因となるため避けてください。※抽苔には高温条件と長日条件が関与します。早まきの場合は冷涼な環境で育苗します。定植は条間 60cm、株間 50cm を基準としてください。

<収穫>

各葉の脇から発生する脇芽(側枝)を収穫します。また脇芽以外にも株の中心部の芽の塊の部分や葉も収穫出来ます。しかしながら大きくなりすぎた葉は硬くなり食用に不向きのため長さ 15cm 程度の柔らかい葉がおススメです。

栽培上の注意点

- 酷暑期の極端な早播き、活着不良や生育時の肥料切れ等によるストレスは不時抽苔の原因となるため適切な管理に努めてください。
- ウィルス病には強くないため、発生の対策として、栽培初期からの害虫(アブラムシ等)の防除を行ってください。

- 寒さにより葉先や頂芽にアントシアニンが発生することがありますので、必要に応じて被覆資材・トンネル等をご利用ください。また、霜により葉が痛んだ部分が枯れることがあります。脇芽に影響はありません。

※ 農薬使用にあたっては「なばな類」の登録農薬を適用し、各栽培地での使用方法に従ってください。

祝蕾との差別化

収穫時期が約 2 週間早くなるため、より早い青果収穫が可能となります。下記は 2014 年秋冬作の社内試験データです。

祝蕾・早生祝蕾栽培比較試験(ガラスハウス)

10月 1日 128穴トレイ播種

10月 22日 定植(畝幅 140cm 株間 50cm 千鳥植え)

2015年 2月 12日 収穫

祝蕾 収穫芽数 12個 合計重量 310g 1芽あたり約 26g

早生祝蕾 収穫芽数 15個 合計重量 980g 1芽あたり約 65g



<ご注意>

左記の試験は推奨作型に比べ遅い播種で行った試験結果です。

尚、左記の収穫量・品質については栽培条件により変動する可能性があり、栽培者様の結果を保障するものではありません。



株式会社

大和農園